筑波技術大学
産学官連携
シーズ

聴覚障害者の自己発生音に関する研究

Study on Self-generating Noise for Hearing Impairment

産業技術学部産業情報学科・准教授　今井　計

キーワード

デフスペース、自己発生音、聴覚障害、騒音、意識調査、ドアの開閉音

研究概要

現在、我が国は聴覚障害者自身（ろう文化）に合わせた空間造りの概念が乏しい。聴者の文化を元に作られた建築物に情報的障壁を補うための機器設備を設置する考えが一般的である。しかし、近年アメリカのギャローデット大学では、聴覚障害者の行動様式等に注目したデフスペース（聴覚障害者自身に合わせた空間造り）の研究が著しく進められている。

その中でも今回は聴覚障害者自身が発生させている音（「自己発生音」とする）に注目し、聴覚的配慮を中心とした。

聴覚障害者は、自身が発生させている音に気づかず周囲の住民に影響を与えるケースがある。本研究では、日常生活において聴覚障害者の「自己発生音」は周囲にどのような影響を与えているか、またその実態について調査、分析を行い聴覚障害者と周辺住民（聴者）双方がより快適な生活を送ることが可能になるよう建築視点からの改善策をまとめる。

聴者の中に聴覚障害がいる家族と家族全員が聴覚障害者（デフファミリー）とでは、自己発生音を出した時（特にドアの開閉音）の注意喚起の仕方に違いがあることがアンケート調査でわかった。

応用例・用途

デフスペースの考えは聴覚障害者の生活の安全性を高め、日常生活でのストレスを軽減させ、より快適な生活を提供することが可能になり、聴覚障害者に限らず高齢者にも有効であり、高齢化が進む日本では需要が見込まれる。

国立大学法人 筑波技術大学　学術・研究委員会
【問い合わせ先】
〒305-8520　茨城県つくば市天久保4-3-15　総務課　学術・社会貢献係
TEL：029-858-9339　FAX：029-858-9312　kenkyo@ad.tsukuba-tech.ac.jp